

令和4年度



東明小だより

第2号

令和4年4月25日(月)

あいさつは笑顔の合言葉

～「社会を明るくする運動」作文より～

校長 奥村 哲也

新緑が鮮やかな季節になりました。朝、子どもたちが笑顔で登校し「おはようございます」とさわやかなあいさつをしてくれると、何だかパワーをもらったようで、とてもうれしい気持ちになります。あいさつは、元気のバロメーターであり、人と人の温かいつながりを築く大切なアイテムだと思います。



さて、昨年度の「“社会を明るくする運動”作文コンテスト」で、卒業生の瀬瀬悠月さんの作文が「岐阜県更生保護女性連盟会長賞」、「可児地区推進委員会会長賞（可児市長賞）」に選ばれました。すてきな作文を紹介します。

あいさつで社会を明るく

東明小学校6年 瀬瀬悠月

社会を明るくするためには、あいさつをして、人との関わりを深めることが大切だと思います。あいさつをすることで相手からの印象も大きく変わり、自分も相手も笑顔になり、うれしい気持ちになります。そしてあいさつは、初めて会った人に「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」と言えば親しむための言葉になり、ごはん前に「いただきます」、ごはん後に「ごちそうさま」と言えば感謝の言葉にもなります。さらに、あいさつは、誰でも簡単にできるというメリットがあります。このようにあいさつは、社会を変えていく大切なものだと私は思います。

私は、全校のみんなと仲良くなりたいと思い、あいさつを意識してがんばってみました。しかし、なかなか思うようにあいさつを返してくれる人がいませんでした。そこで私は、どうしたらあいさつを返してくれるか考え、まずは「相手の目を見て」「礼をして」「笑顔で」あいさつを試みることにしました。すると、少しずつですが、あいさつを返してくれる人が増えてきました。このような小さなことでも、私はとてもうれしく感じました。でも、全校のみんなと仲良くなったわけではないので、次に私は、どうしたら全校のみんなと仲良くなれるあいさつができるのかと、考え直してみました。それで考えたのが、「相手の名前を呼んであいさつ」をすることです。私たちは、どのように同学年のみんなと仲良くなったのかと考えてみたところ、まず名前を覚え、おたがいの名前を呼び合うことで毎日少しずつ仲良くなっていったのだと思い出しました。それと同じように、まずは相手の名前を覚え、そして相手の名前を呼んであいさつをしたら、仲良くなれるのではないかと考え、実行しました。すると、全校のみんなも私の名前を呼んであいさつをしてくれるようになって、とてもうれしい気持ちになりました。さらに、たくさんの新しい友達もできました。この時、私にはとても達成感がありました。その後も「相手の名前を呼んであいさつ」を続けてみました。すると、私に話しかけてくれる人や、私に手をふってくれる人が多くなりました。これで、多くの人との関わりが深まり、みんなとの輪がつながって一つになったように感じました。

私は、今回のことから、あいさつの仕方一つで、人とのつながりが強くなることを実感しました。自分が気持ちの良いあいさつをして、相手が不快に思うことはないはずです。そして、気持ちの良いあいさつをして自分が損をすることはありません。また、あいさつは、たくさんの種類があり、多くの意味があり、様々な場面で使うことができます。一言でみんなを笑顔にできるあいさつは「笑顔の合言葉」とも言えるでしょう。この「笑顔の合言葉」は学校だけではなく、日常生活や社会でも使っていくことができます。いつもの生活にあいさつを取り入れるだけで、毎日が変わってくると私は思います。このことを一人ひとりが行って、次につなげていけば、いつかは世界中の人々と関わり合えると思います。そして、世界に明るく大きな笑顔の花が芽生え、立派に成長して、花を咲かせられるでしょう。

4・5月の学校生活目標は、「うれしいあいさつをしよう」です。今年度も高学年の子どもたちが、児童玄関前であいさつ運動を続けてくれています。自分もうれしい、相手もうれしいーそんな「あいさつの若葉」が、もっともっといっぱいになり、ぐんぐん育っていくことを願っています。